

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を实践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を实践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	2774200923
法人名	社会福祉法人 慶徳会
事業所名	グループホーム ふじい
訪問調査日	平成 19 年 7 月 19 日
評価確定日	平成 19 年 8 月 23 日
評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2774200923
法人名	社会福祉法人 慶徳会
事業所名	グループホーム ふじい
所在地	大阪府茨木市見付山1丁目3番29号 (電話) 072-623-9602

評価機関名	NPO法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪府中央区常盤町二丁目1番8号親和ビル402号		
訪問調査日	平成19年7月19日	評価確定日	平成19年8月23日

【情報提供票より】(19年7月3日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 12 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	8 人
職員数	9 人	常勤	2 人, 非常勤 7 人, 常勤換算 4・

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り 1階建		
	1 階建ての 階 ~ 1 階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	45,000 円
敷金	有() 円 ○無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() ○無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1000 円		

(4) 利用者の概要(7月3日現在)

利用者人数	8 名	男性	1 名	女性	7 名
要介護1	4 名	要介護2	1 名		
要介護3	2 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 82 歳	最低 74 歳	最高 89 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	博愛茨木病院(内科 外科 眼科 整形) 朝倉歯科
---------	--------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

緑豊かな環境に恵まれた当ホームは平成12年4月1日に茨木市で最初に設立されたグループホームである。母体は歴史ある社会福祉法人慶徳会で地域に信頼される施設を目指して、時代に即応した地域社会の福祉に取り組んでいる。入居者は地域の老人会のクラブ活動や交流会等に積極的に参加し、併設の特養の入居者との交流を楽しんでいる。毎日の散歩で出会う地域の方々とは気軽に親しく挨拶を交すまでになっている。ホーム内には季節の食材を収穫できる菜園があり、職員と入居者は一緒に手入れをする等ごく自然なゆったりした暮らしが続いている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価の改善点は特に指摘をされていないが認知症研修については段階的に初級、中級、上級と職員の段階経験に応じて受講できるように職員の質を高める取り組みを行っている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	施設長はサービス評価の意義と目的を職員に伝え、日頃の業務改善に関する意見などを出し合いながらサービスの向上に向けて全職員で自己評価への取り組みを行った。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は2ヶ月に1回開催されて利用者、家族、市介護保険課担当者、地域の福祉委員、ホームの職員の20名からの参加者があり利用者や家族からサービスに対する意見や要望を聞くことが出来て、今後の改善に向けた具体的な取り組みに役立っている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	毎月、家族に利用者個々のホームでの生活記録、金銭管理、運営推進会議の内容等をホーム便りと一緒に同封して報告している。定期的な報告の他に家族が訪ねて来た機会にはあらゆる情報提供をしているので家族に大変喜ばれている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目⑥	入居者は地域の一人として自治会や老人会、婦人会等の行事やクラブ活動に積極的に参加して楽しんでいる。近隣からのボランティアの受け入れや他施設との交流、系列施設の子もたちとも楽しい交流を保っている。事業所は地域とのつながりを大事にしながら地域住民との交流に積極的に取り組んでいる。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	平成18年の介護保険改正を機にこれまでの母体組織の理念を見直して 入居者の人権を尊重し、地域との結びつきを重視した地域密着型サービスの役割を指した内容のホーム独自の理念に作り変えている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は職員が目にする場所に掲示され職員会議やミーティング等 日々の打ち合わせの中で話しあい確認しあい職員もよく理解されて日々の介護に活かしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	周辺地域の諸機関との連携は非常によく、自治会・婦人会との交流も積極的にクラブ活動や音楽会などの行事に参加している。散歩の時など気軽に挨拶等かわされて地域住民の一員として落ち着いた暮らしをしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価を受けることにより職員全員がサービスの質の意識が高められて良い効果を挙げている。自己評価も職員の意見を取り入れながら皆で確認しあい自己評価の実施に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の運営推進委員会議を行っている。会議には利用者、家族、地域福祉委員、市介護保険課担当者など20名の幅広い参加者で行われている。 外部評価の結果やホームの運営状況を報告し会議で得た情報はサービスの向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者とは常に相談連絡を密にして連携を図っている。行政の行うサービス情報の提供や書類等の指導などを受けて入居者のサービスに活かしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月、家族のもとへホーム便りと入居者の日々の暮らしの様子を報告と一緒に同封して届けている。家族の来訪は多く、個々に合わせた細かい報告は非常に家族に喜ばれている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年一回の家族会議とアンケートの実施をして家族が気軽に意見を出せるように機会を設けている。苦情の内容は職員で共有し 今後のサービスの質の向上に反映にさせていくようにしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ホーム開設当初から職員の異動や離職者もなく、入居者と職員は馴染みの関係が保たれて、入居者は安心して過ごしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	限られた職員体制の中で内部研修、外部研修ともよく受講出来ている。受講者は全員が共有できるように研修報告をしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2ヶ月に1回実施されている市の施設部会や併設特養の職員と交換研修、相互訪問などされて質の向上に努めている。入居者も他施設の入居者との交流を図る機会も設けて良い関係作りに努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居者の安心と納得を大切にして、利用者一人ひとりが安心してサービスを利用出来るように希望があれば体験入所も実施している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者の心のよりどころを大切にしながら共に喜怒哀楽を分かち合い、支え助け合っている。職員は人生の先輩として尊敬し学ぶことが多いことに喜びを感じている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者がその人らしく暮らしていけるように周りとの調和を取りながら強制せず入居者の思いや暮らし方の希望に沿うように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画を作成する時は本人、家族、係わっている関係者とよく話し合って作成している。職員は日常の支援の中で気付いたことはメモにとりそれを意見に取り入れている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回の見直しと毎月のカンファレンスを実施している。変化があればその都度、臨機応変なケアプランの見直しの変更をしている。介護計画の記録はきちんと詳しく書かれている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者が安心して暮せるように本人や家族の要望に応じて外出支援、移送サービス、行事、外泊支援などその時々に必要な支援を柔軟に提供している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族が希望する医療機関、医師に受診できるように家族と相談しながら十分な話し合いを行っている。受診結果に関する情報も共有が得られるように常に連携を取っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族の来訪時や運営推進委員会議の時など機会あるたびに家族の意向を聞いているが家族の思いは常に揺れ動き文書化までには至っていない。	○	入居者の急変や重度化した場合の対応のあり方について、今後、ご家族、かかりつけ医や看護師等と段階を踏んで話し合い文書化されていくことを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は入居者の意思や人格を大切に誇りやプライドを損なわないように常に利用者の立場に立ってゆっくり、丁寧な対応を心がけている。個人情報保護法の研修も行い理解も深めて特に秘密保持の徹底が図られている。	○	全ての職員は個人情報保護法の研修を受け理解も深めて個人情報の取り扱いには細心の漏洩防止に気配りをしているが研修を受講された記録が整理されていないので今後は受講日、参加者、題目、内容などをきちんと記録に残して行く事が望まれる。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者がその人らしく暮らしていけるように周りとの調和を取りながら希望に沿うように努めている。家庭的な雰囲気の中で日課に縛られずにゆったりと安定した生活を過ごしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に楽しく食事をして殆どの入居者が完食されている。入居者は活動意欲、自立度も高く職員と一緒に食事の準備、配膳、後片付け等の家事を職員と協働されている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3日の入浴が決められているが、もっと入浴したい希望者には時間帯とも臨機応変に対応している。入居者は入浴の時に鼻歌や話もはずみリラックスされている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者は地域の老人会や婦人会等のレクリエーションやクラブ活動への参加、ホーム内の菜園の手入れ、ゲーム遊びなどその人らしい楽しみを持っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	朝夕の散歩は日課になっており 歩いた距離を毎日記録して加算表を作って掲示している。外へ出ることにより近所の方々との挨拶も自然に出来ている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵はかけず小型受信機を設置して玄関の出入りをに注意し不意の事態にそなえている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけしている	避難訓練は地域の福祉委員や独居老人、自治会にも声かけて毎月一回実施している。様々な発生時間を想定して昼夜突発的に自主訓練も行っている。災害に備えた非常食や非常品も準備されている。入居者が災害時に着用する蛍光着衣の使用も考慮されておられるので 早い時期に備えられるように期待する。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士がカロリーの過不足や栄養の偏りがないように献立は立てている。入居者は毎食の食事は殆どが完食されており 職員は入居者の栄養や飲水量は常に意識しながら支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や廊下には入居者の絵や書、手芸品等が飾られて、生け花や観葉植物などが置かれ、心地良く過ごされるように工夫されている。廊下の窓際には2~3人程度が座れるように設計されて寛げる配慮がなされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は洗面台も設置され清潔に保たれている。家族の写真や家具、仏壇など持ち込まれてその人らしく居心地よい居室作りに工夫されている。		